

海は甚だ軍用に適す唯概して之を云へば此方面の海岸には岬曲少くして良好なる上陸地を欠けり

其南方及び西方に於ては岬曲全く之に相反す故に日本海陸軍司令官の面前に横はれる實地の問題は艦隊の機體に依りて運送船は不當の危険を冒すものとす朝鮮の西部海岸に於て如何ばかり北方に其兵を輸送し得べきやと云ふにあり其地點の北するに従ひて交通線は之を短縮すべく且つ其第一の目的物に益々接近するを得べし第一の目的物とは他にわらず即ち鴨綠江岸に於ける露國の軍隊是れなり我等の見る所は據れば仁川は即ち露國海軍力の尙ほ之を無視するも能はざる間日本の認めて不當の危険を冒すものとす其兵の機體に利用し得べしと爲すべし朝鮮の西岸に於ける最北の地點たるを得ず

露國の艦隊は仁川沖に於て若し日本の此處に妨害を欲せんことを欲せば約三百噸の海洋を越えて來らざるべからず然れども日本今既に旅順口に於て成功したるを以て露國艦隊の有力に之に妨害を加へ得べき機會は其以前に比して著しく減少せり尙ほ日本の利用するものあるべき港灣は仁川のみ止まらざるべし日本の朝鮮に送らんと

する軍隊は必ず鴨綠江岸に於ける露國軍隊を撃破するに堪へたるものならざるべからず露國は日本その主力を以て朝鮮より襲ひ來らんとするを知らば是れ亦絶東に於ける其軍隊中より野戦に堪へたるものを擧げて漸次之を此地に集中せんことを謀るべし是を以て加日本軍隊は頗る強大なるものならざるを得ず成算を以て鴨綠江の此處を行ふに足るべき兵力を之に集中せんとするに自ら之が時を要す爲めに敵艦隊の使用を見るに至るべく又之に類する運送船の往復を見るに至るべし東岸に於ける元山より西岸に於ける仁川に至るまで少くも六箇の港灣は之が爲めに使用せらるべし

朝鮮の北方に於ける其國民に對して日本が元山以南に退去すべしとの命を發したるは即ち明に同半幅を横斷して此點より以南を保持せんとする軍事的意志を表示するものなり其計畫果して之にありとせば日本の第一に乘用せしむべき軍は各兵種の最も強大なる部隊ならざるべからずして之に特定したる諸陣地を占領せしめ且つ防禦せしめて以て之が後方に漸次その軍隊を集積するに自由ならしめんとするものならざるべからず露國に於ては之を掃蕩してアルタード クラウエルチユーニル(掩護軍隊)と云ふ即千八百七十年の戰(普佛

戰)に於て初めて之が必要を發見し爾後各大國民の皆戰略上の一項として採用するに至りたるものなり
本日の電報に據れば仁川艦に占領されたりと云ふ同地に陸上したる軍隊は四箇大隊より成れるものたるを信するに足るべき理由あり尙ほ此軍隊の一部は既に京城に達したるが如し朝鮮に上陸したる此軍隊は北方進軍の目的を有する大軍隊の先鋒隊なりや將た旅順口に於ける其成功の結果として日本は更に其目的物に近き地點を擧ぐべきや其は將來に至らざれば決するも能はず然れども日本にして若し一たび旅順口に於ける露國艦隊を征服し得たりとせば日本は最早や北進軍の策を敢てするものとかなるべく其回復し得たる自由を飽くまでも利用するは明白なる事態なりとす
二十日の戰事誌

三月廿四日 晴 東京

○タイムスの日露

戦争批評(三)

タイムスの軍事技術家が二月十一日の紙上に論じたる所在の如し

昨日午後接収したる報道に據れば今回の戦争の第一陣は露國艦隊に依りて發せられたるが如し二月八日午後日本運送船及び護衛艦隊の仁川港沖に來着するに當りて千二百噸の排水艦と十三隻の速力を有する舊式無甲裝の露國艦隊とトツ光つて之を撃つた其同僚艦隊はリヤークに合せんが爲め同艦は港内に航走しリヤークは其東方に至る航程中曾て波瀾に示威的巡視を行つた以て一時の榮華に誇りたるものなり同艦は千八百九十九年の進水に係り六千五百噸の排水艦と二萬の指示馬力を有し速力二十ノット、十二門の六吋砲と二十門の四吋砲を備へ全船一萬餘噸の重量五百十噸と算する一等甲裝巡洋艦なり斯くて露國軍艦は瓜生少將に依りて港内に之を砲撃すべしとの脅迫を受けるに至るまで港内に止まり漸く外面に出でし勇敢に其運命に服せり即ち未だ其名を明にせざる日本艦隊と一時則交戦の後アリヤークは沈没しコレイツ亦爆發の上沈没に至りたるものなりアリヤークの乗組員

は思ふに五百五十人以上コレイツ亦二百人許なるべし此等は皆佛國郵船の教員所となりたるに似たり別報に依れば内若干の上陸して捕虜となりたるものありと云ふ

此報道に於て注意すべき點二箇あり一は即ち旅順口に水雷艇攻撃の行はれたる前敵時間にしてコレイツの其艦隊を行ひたるものと宛分明白にして日本は最早や戦艦を促進したりとの非難を受けるを要せず其敵の先づ旅順に之を初めたるものなるも是れなり

第二の點は露國巡洋艦の關與なりトバスカルの艦長にして若し人道に基づき溺死に瀕せる兵員を救助せんとして之に關與したるものなりとせば之を以て至當の行動なりと爲すものとを得べく露國の同盟國たる關係よりして之に特別の好意を有するものたるは固より之を諒しすべし然れども其他の原因よりして之に關與したるものなりとせば其行動は之を以て中立國の權利外に逸したるものなりと爲さるべからず何れにするも法律上露國の水兵は佛國の領土内に入りたるものなり今後の戦闘には斷じて之に加はる能はざるの束縛を受くるものなりとす

アレキサンダー提督よりの電報は九日東郷提督の艦隊旅順口に接近し來り同海面に起りたる

戰闘につきて重ねて其一端を我等に漏らす所ありウスベンスキー大佐を艦長とする同艦隊ボルタヴァ、一等保護巡洋艦イサナ、アシコルド、二等保護巡洋艦ノヴィツク普水線に於て損害を受けたりと云ふ夜襲に於ける露國兵員の損失は十五名にして翌日の戦闘に於ける損失は六十六名なり日本の損失に就ては未だ聞知する所なし但し其各艦及び水兵とも此等の戦闘を経て損傷なく返却したるものなるに似たり

茲に我等が衷情よりして露人を稱せざるべからざる一美事あり我等は戦中成功、不成功その如何なる波瀾ある開せず双方とも切に此方針を履行せんことを希望するものなり即ち他にわらず露國の艦隊に呈したる電報雖も其實狀を陳供して即ち恐れざるの情あるものと見れなり仁川の戦争に關する日本の公報亦等しく率直にして能く事々明にす然れども日本の之を爲すや其皆げんと欲する所は實に露國なるを以て大に快く且の眞なるものあり之に反しアレキサンダー提督に至りては露國の外遊に發すべきものを有せしめるも尙ほ其眞を吐露し其皇帝に對し不忠なる事案を露兵が爲す

更に何種の熱交曲線を尋ねるもなし是れ水
道に於て至其の政略なるは是れ水雷艦なる
艦隊にして若し其の精神を以て其の外交
術に注ぐるも其の用は世界の平和は遂に爲
めに確立するを得るに至るべけん

日本水雷艦隊の著大なる成功は頗る輿論を動
し延いて其の價値及び之が一切の動作を
輕視するの傾向既に生じ來りたるは要するに
止むを得ざる所なりとすオーストリア及び
ルノー氏等による露國の少壯派は思ふに其
豫言したる所の如く明白に事實の上に現出し
たるにつれて狂せんとするの状にあるものな
らん此派の機關艦たる好小艦隊マリン
ランサーズは其が得意の名交と論法を用ひ
て之に對し敵派は其熱心を與へんことを謀る
は蓋し難するに難からざる所なり然れども亦
英國に於ては大なる艦隊と設備とを有する
人の間に其の情勢上は且の水雷の功力
及び水雷の危険を輕視するの状あるは之を認
めざるべからず水雷熱心家の主張する所及び
之が反對論者の唱導する所とは其が間に其
可否を決するに足るべき未だ明確なる實験の
存するもなし演習に當りて少壯の少壯が
艦隊は水雷の機關艦を以て其の熱心を海底に
沈めんとし固より思ひ寄らず其は難する所

にして一たび警報官の否拒する所とならば少
壯士官は唯々として退き獨り其肩に聲かして
若し之をして警報ならしむれば其結果の大に
異なるものあらざるべからざると思ひ自ら感
るの外なきなり既往の戦争に於て諸艦隊の
功績を現し以て少壯海軍將士に其名を爲さし
むるに堪へたりし一切の艦隊と諸艦は皆移し
て之を水雷艦隊に用ふるを得べく此點に於て
水雷艦隊は此等の諸艦に堪ふるもなき艦隊
を與ふるものなり旅順口の示す所に據れば其
成功の結果は殆ど外洋に於ける艦隊戦争の勝
利にも足敵するに堪へたるものあり是を以て
か旅順口に於ける日本勝利の結果は自らし
て水雷熱心家に其熱心を倍増せしめ益之が
擴張を許して且つ之を艦隊に用ふるの方法
を謀るに至らざるものならざるべからず

然れども徒に狂熱するもたゞに推論して
旅順口の戦争は今日まで未知に屬せしものと
聊も證明したるにあらざり又何種の事態にも變
更を與へたるものならざるを認知するも
又切要ならざりせず戦争は技術なり諸艦隊に
して名手はあらざるよりは更に生命ある作
を出すも能はず士工ホワイトなるものは
ロニエア、レーノルド氏の畫室に常に出入す
るものにして常にモデルとして使用されたり

然るもホワイトはレーノルド氏より其軍を授
けられて果して如何の事を爲し得るものぞ
我が海軍に於ては最新式水雷の機關艦増大
し進路また其精神を加へて諸艦隊力亦頗る
なるを一人として知曉せざるものあるも
となし其熱心に抗するに堪へたる最も完全なる
準備を有するもなき艦隊に一人の艦隊に
活動せる敵を捕らふるに堪へたる艦隊に
以て十國軍の軍艦を失ふを敢てせんとするも
のあらんや旅順口の戦争は之を要するに近時
學術の進歩甚だしく遂に或る國民中には至
に新式艦を使用するも能はざるものあり
域に達したるものと示すの外何種の事態を
明するものならざり此等の國民に取らざる
艦隊及び水雷艦隊と戦争船及び石火矢たる
間に寸毫區別あるもなきなり

旅順口に起りたる事件の顛末即ち如何の露國
の艦隊は明に事後得優より其命令に接したる
ものなるべし一たび次港を出でし海に航し後
りて二月四日岸上砲臺掩護の下に其艦を放
五日に遊りて日本即ち商船を捕らふ其行
れたる利益に對しては之を保護する爲め其行
動を強るに至るべきを以て露國に通告せり是
れ即ち戦争を意味するものなり此事觀て六
日の官報(譯圖)にあり然るに露國の艦隊に至

りては殆ど信するに難きものなり其艦隊は兩
として停止し港灣の各艦隊明として停の如く
に耀き三度の水雷艦隊の爲めに發せられた
る如何の事態の警戒加へらるゝもたゞ其
の艦隊は皆港内に却けられ艦隊を擧げて之
を敵に附せんとせり當夜海軍、海軍にして月
明なり水雷艦隊の起りたる事態に至りては我等
の物質的諸點を知る日本軍乃ち至れり其並
れるは之が放てる水雷の與へたる衝動に依り
て初めて之を知らされたるなり

矢船たらしむるも尚ほ且つ斯くの如けん艦し
や之が爲めに提督を如くせしと云ふものある
も亦三層水雷艦を非なりとするものあらざる
べく戦争機關として艦隊の功力は今尚ほ非
と斷り異なるもたゞ之が爲めに其末も増減
されたるもたゞなるなり
之を要するに露國艦隊は何故に外洋に出でざ
りしや艦隊上より云へば即ち日本海軍を恐怖
したるに依るものなり然らば其故如何即ち敵
の艦隊優勢なりしを以てなり是を以てか公
平に之を解すれば露國艦隊が彼に如く其艦を
受けたるもの其原因は露國艦隊の直接脅
迫にありと爲すも得べし然れども其理由
を以て直に水雷艦の信用を減するも能はず
ナ戦争の技術に於ては一軍一艦に其能を
待ち一軍一物みな其能を用ふるの所を有す
露國人が心意の狀態は汽船コラムビアの行ひ
たる動作に依りて之を判するもを得べしコ
ラムビアは即ちアレキサンダーより出帆禁
止の命を受けたるものにして船内には爲めに
守兵を附せられたり然るに艦隊なるに及び
船長は其爲したる信號の應せざるを見て撞
に私に其艦隊守兵を離せたる艦隊を扱いて
芝罘に航走せり提督命令の此違反に對しては
何等の注意の加へられたるもなき艦隊艦
は港口に座礁したるに似たり爲めに其港口を
閉塞せるや否やは目下未だ明ならず

タイムスの軍事記者が二月十三日發行
の紙上に於て論じたる所左の如し
昨日露艦隊に於て發表されたる十一日露ア
レキサンダー提督の電報は旅順口に起りたる劇
時的事變の史上は其第一頁を添加したり
九日の戦艦は十日に於て反覆されざりしが如
く中間の夜は静寂に経過したるに似たり十日
巡洋艦に依りて偵察は行はれたりと雖も更に
敵艦を發見するも無かりし九日に於て其艦
隊を開始したる後東郷提督の艦隊は何れに赴
けるやは凡て想像の問題として存するのみ邊
に目撃者に依りて報せたりと稱されたる二
隻の軍艦即ち露國艦隊ラエザレイツク及び巡
洋艦バルラダは今内港に引き入れられたりと
云ふアレキサンダー提督は二隻の取崩艦に關し
て更に良好なる報道を齎すも能はず其眞實
に吐露する所に據れば此等軍艦の修補は頗る
複雑したる事業にして其再出航に堪ふるま
では果して幾日を要すべきや之を豫言する
も能はずと云ふ要するに提督は此問題につ
きて程申を促されたるものなり如く提督の程申
は即ち二隻の露國取崩艦(ラエザレイツク)

○タイムスの日露戦争批評(四)

其艦に行ひたる尖艦を以てして尙ほ足れりど
するもたゞ露國軍艦は勿忙として其探海燈
を點せり是れ海中に驟然として其輪廓を浮動
せしめたるものにして日本をして爲めに益
其標的を明にするを得せしめたり露國の艦隊
は一として晴天に至るまで運動したるものな
きが如く徒に好箇の艦隊を以て運命の受動的
犠牲たるに委せたり日本が其最良軍艦より擇
びて漸次に艦隊を下したるは固より其所にし
て之が結果に至りては既に我等の知れる所の
如し即ち殆ど海軍を以て目すべきもの此一
夜の間に得られ且つ失はる

斯くの如くにしては此以外の結果望し之を期
するも能はずなりなるべし取崩艦にして昔
時の三層水雷艦たらしめ水雷艦を以て又石火

は即ち二隻の露國取崩艦(ラエザレイツク)